

小麦「バンドウワセ」の追肥条件

1. 試験のねらい

小麦「バンドウワセ」は耐倒伏性が大きく、作りやすい品種であるが、生育後半に窒素肥料切れによる減収が起こりやすい。このため追肥効果の高い施用時期と追肥可否の生育診断基準を策定する。

2. 試験方法

平成3～5年度に追肥時期を茎立期及び茎立後20日に行ったものについて、追肥前の生育形質と無追肥区に対する収量比との関係を調査した。

試験は農試水田（厚層多腐植質多湿黒ボク土）水稲跡において行った。

3. 試験結果および考察

- (1) 3月中下旬頃の茎立期追肥は収量でアール当り45kg以上が期待でき、しかも収量増加率（収量比）が高く、遅れ穂の発生が少なく、また粗蛋白含量の増加もあまりみられない（表-1）。
- (2) 茎立期20日後の追肥は収量増加率はやや高いが、収量が不安定で、遅れ穂の発生も多く、また粗蛋白含量もやや高くなりやすい（表-1）。
- (3) 本品種は耐倒伏性が高いため、収量増加率を追肥の判断基準にすると、茎立期における各形質と収量比との相関は葉色との間にみられ、葉緑素計値で46.5を越すと増収効果は見られない（表-2、図-1）。

以上のことから水稲跡の小麦「バンドウワセ」の追肥の施用時期は、追肥効果の高い茎立期とし、追肥は葉色値（葉緑素計値）が46以下の場合に行うのが適当と考えられる。

4. 成果の要約

黒ボク土における水稲跡小麦「バンドウワセ」についての追肥時期と追肥可否の判定基準を策定した。追肥時期は茎立期に行うことにより、品質が安定し増収効果が高い。その判定基準は葉色値が46以下である。

（担当者 作物部 倉井耕一・木村守*） *現今市農業改良普及センター

[具体的データ]

表-1 茎立期および茎立期20日後の追肥と諸形質

	子実重kg/a			収量比%		遅れ穂割合%			粗蛋白含量%		
	無追肥	茎立期	同20日後	茎立期	同20日後	無追肥	茎立期	同20日後	無追肥	茎立期	同20日後
区数	8	8	9	8	9	8	8	9	8	8	9
平均値	37.0	55.5	49.7	156.8	130.9	2.8	2.5	12.7	8.6	9.0	9.6
最大値	53.5	68.6	67.7	204.2	168.1	6.9	6.0	36.3	9.0	9.9	10.5
最小値	26.2	44.8	34.9	98.4	87.0	0.0	0.5	0.0	8.0	8.7	8.8
変動係数	28.4	12.4	20.9	25.8	20.0	93.2	80.7	31.2	3.9	4.1	5.9

注1. 1区面積は平成3, 4年度が36㎡, 5年度が24㎡である。

注2. 収量比は子実重の無追肥に対する割合(%)を示す。

注3. 追肥量は10アール当り窒素成分で平成3年度は3kg, 4年度は3および5kg, 5年度は4kg。

表-2 茎立期における諸形質と収量、品質等との相関

	草丈	莖数	葉色	草丈×莖数	草丈×葉色	莖数×葉色	草丈×莖数×葉色
子実重	-.423	.222	.381	.085	-.230	.263	.132
収量比	-.315	.300	-.738*	.218	-.530	.207	.129
粗蛋白含量	.269	-.033	-.166	.047	.185	-.050	.023
等級	.792*	-.526	-.106	-.300	.637	-.541	-.328

注 n=8, *は5%水準で有意であることを示す。

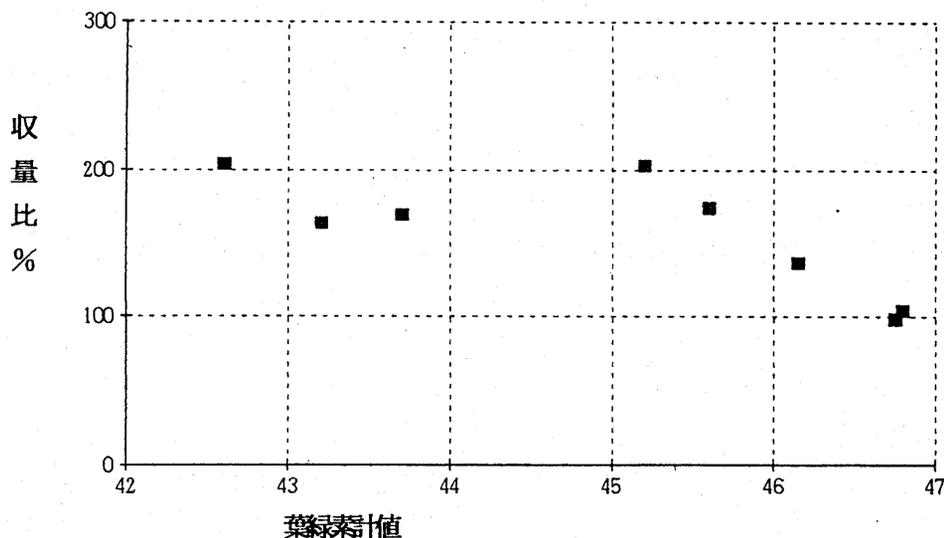


図-1 茎立期における葉色と収量比との関係